

全国学力・学習状況調査(6年、9年)結果

※ 平均正答率 (全問正解を 100% とした正答率の平均)
 ※ 理科、英語については 3 年に 1 度調査 (R4 理科が対象)

6年

【国語】 平均正答率 66% (全国 65.6% 県 66%)
 【算数】 平均正答率 73% (全国 63.2% 県 63%)
 【理科】 平均正答率 74% (全国 63.3% 県 63%)

9年

【国語】 平均正答率 77% (全国 69.0% 県 69%)
 【数学】 平均正答率 71% (全国 51.4% 県 50%)
 【理科】 平均正答率 75% (全国 40.3% 県 49%)



福岡県学力・学習状況調査(5年、7年、8年)結果

5年

【国語】 平均正答率 67.4% (県 59.0%)
 【算数】 平均正答率 63.2% (県 63.6%)

7年

【国語】 平均正答率 61.1% (県 63.8%)
 【数学】 平均正答率 67.4% (県 57.8%)

8年

【国語】 平均正答率 56.9% (県 51.4%)
 【数学】 平均正答率 50.5% (県 44.9%)



【本校職員による分析】 今後の指導の在り方を見直すために、校内研修にて、児童・生徒のテスト結果を分析したり、公立高校の入試問題を解き、子どもにどんな力をつけるべきかを考えたりしました。

- ・単に、本校の平均点と県や全国の平均点との比較だけでは実態を把握することにはつながらない(児童・生徒数が少ないため)。個々の結果の変化(経年変化)を見取り、児童・生徒一人一人にどのような指導をしていくのか、明らかにしていく必要がある。特に、宿題等の課題の出し方についても個別対応する必要がある。
- ・無回答はない=学習意欲は高い。粘り強く解こうとしている。説明場面においても、自分なりに一生懸命答えている。しかし、回答内容の正確さに欠ける。
 → これまでの授業で、思考力・表現力を問うような場面(説明したり、友達同士で議論したりする場面)を大切にしてきた成果。今後も、そのような場면을大切にするとともに、正確さを高め、ケアレスミスをなくすために、出題傾向に慣れさせることや注意力・集中力を高めることが必要である。
- ・国語、算数・数学、理科、全ての教科において、読解力に課題がある。質問内容が何を尋ねているのか、何を求めているのか理解できていない児童・生徒がいる。文章のみならず、表の見方を正しく理解していないために、妥当な回答に至っていない場合が多い。
 相手に正確に伝えるための語彙力も不足している。

→ 全教科・全領域において、文章を読み解く場面、資料や表等の情報から読み解く場面を設定していく必要がある。

→ 読書(図書館の利用)量を増やす。新聞(校務センターの前に設置している)を読む習慣をつける。

→ 対話場面を増やす。これまで以上に、授業中、思考・判断・表現する場面を設定する。授業以外でも、発問をして子どもの考えを引き出し、表現する場面を設定する。日常の会話においても、「なぜ?」「どうしてそう思うのか?」「根拠は?」「それで、どうしたいの?」と発問をし、考えを引き出す。

→ できるだけ、活字に触れさせたり、大人と対話をしたりすることにより語彙力を増やす。

図書司書の片山先生は、みなさんの読書量が増えるように、借りた本の数をシールによって可視化(目に見えるようにして、頑張っている人を評価)されています。シールがたまると、しおりや貸出し冊数が増えたりする特典があります。どんどん、シールを増やしていきましょう!

また、八女市では、定期的に移動図書館「ゆめみらい号」が来校したり、誰もが気軽に読書できる電子図書を利用できたりするサービスがあります。

ご家庭でも協力をお願いします!

